

東京家政学院短大 今井弥生 共立女短大 ○藤田信子 文化女大
飯塚弘子 盛田真千子 共立女大 武井幸子

目的 わが国の人口構成は急激に高齢化しつつあり、これに対応する高齢者の生活行動の解析は急務である。当学会色彩・意匠学部会では早くよりこの点に着目し、昭和62年度全国的に高齢者の色彩感情の実態調査を実施した。今回は同じ目的をもって表題「老年期における色彩感情の研究」について実態調査を実施した。本報は高齢者の色彩嗜好の要因について報告する。方法 1)対象 2100名 フェイス・シート

性別		老年前期		後期		職業		未婚			世帯			住居形態	
男	女	65~74歳	75歳以上	有	無	未婚	既婚	1人	夫婦	他同居	1戸建	集合			
574	1526	1334	766	378	1722	101	1999	379	699	1022	1628	472			

2) 調査時期 1993年9月1~30日 10~15時 3) 手続 質問紙法 面接調査 J I S
色票80色 形容詞14尺度 5段階評価 4) 主成分分析 因子の解釈 意味づけ

結果 好きな色彩のイメージ・プロフィールは好きな、こゝろよいから地味な、流行のに至る。各形容詞間の相関は好きなところよい、若々しいと明るいが0.5以上であった。因子負荷量は第1因子 美しい ところよい 明るい 第2因子 似合った 地味な 第3因子 流行の 個性的な 第4因子 清潔な 地味なである。累積寄与率54.4%。1軸 保守的な若々しさ 2軸 慎しみ深い 3軸 都会的大人のつぼさ 4軸 未成熟因子と考えられる。したがって老年期の色彩嗜好の要因は個人差はあるが全般に家庭的、社会的調和を保った中で、若々しさと落ち着いた大人の美しさを求める感性豊かな色彩を嗜好することが分かった。